

(株) ジェイテック

No. 16

～大分を世界の技術の発信基地にしたい！～
ライフラインやインフラの安全を目的とする

「新検査機器および第8回総合検査機器展への出展」

日本国内のライフラインやインフラは高度経済成長期に建設されたものが多く、ほとんどが築50年を迎えます。そこで現在の日本の豊かな生活や環境を維持するため、これらの設備の健全性の確認が国策としても急務となっております。これは安倍内閣による「国土強靱化政策」や2020年に開催される東京五輪に向けての整備計画にて明文化されています。

そこで当社も非破壊検査の事業体として、単に従来からの検査を行うだけではなく、従来不可能だった事を可能にする世界の技術を展開する事でこの問題への解決に寄与する所存です。具体的には、ポータブル超音波探傷装置ISONIC3510(イスラエル)、CRAB・ROBOT(独)を日本総代理店として国内にて初リリースします。

また9/28日より開催される、第8回総合検査機器展に出展することで、これらの世界技術を広く周知したいと考えております。

一方この事業活動を通じ、大分県を世界技術の発信基地とブランディングすることで地域貢献に努めます。



- ポータブル超音波探傷装置ISONIC3510 (イスラエル製)
超音波を利用し金属内の欠陥を探傷する装置。従来の検査装置に比べ、より深くより遠くにある欠陥の探傷が可能。一方、多彩なソフトウェアを携えることで、欠陥位置の可視化、複雑な形状の部品の検査等も可能に。
- C R A B - R O B O T (ドイツ製)
配管内部を自走し検査を行うリモコン式自動検査ロボット。先端にカメラを携え、最小で2Bの小径配管も対応可能。強力小型モーターによる垂直走行やバネ仕掛けの強力駆動アームによる配管曲がり部も検査走行可能。